

項目反応理論による CES-D の項目の識別力と困難度の解析(12-29 歳)

	識別力	困難度 1	困難度 2	困難度 3
項目 1	0.80	0.33	2.06	3.55
項目 2	0.52	1.18	3.09	5.18
項目 3	0.99	0.85	2.12	3.12
項目 4	0.24	-2.09	-0.37	1.94
項目 5	0.83	-0.07	1.38	2.78
項目 6	1.12	0.03	1.19	2.12
項目 7	0.86	-0.32	1.22	2.30
項目 8	0.33	-2.46	-0.56	1.71
項目 9	0.68	0.18	1.68	2.99
項目 10	0.88	1.43	2.59	3.66
項目 11	0.62	0.86	2.35	3.57
項目 12	0.36	-2.07	-0.62	1.42
項目 13	0.81	0.81	2.21	3.52
項目 14	0.79	1.11	2.34	3.43
項目 15	0.88	1.41	2.73	3.79
項目 16	0.57	-0.97	0.44	1.76
項目 17	0.69	2.33	3.73	4.95
項目 18	0.94	0.83	2.25	3.42
項目 19	0.89	1.32	2.83	3.89
項目 20	0.82	0.49	1.95	2.93

困難度 1:「少しはあった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16
 については、カテゴリーを逆にみて「ときどきあった」というカテゴリーの困難度

困難度 2:「ときどきあった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16
 については、カテゴリーを逆にみて「少しはあった」というカテゴリーの困難度

困難度 3:「たいていそうだった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16
 については、カテゴリーを逆にみて「ほとんどなかった」というカテゴリーの困難度

項目反応理論による CES-D の項目の識別力と困難度の解析 (30-59 歳)

	識別力	困難度 1	困難度 2	困難度 3
項目 1	0.93	-0.10	1.65	3.16
項目 2	0.69	0.98	2.63	4.45
項目 3	1.13	0.65	1.91	2.90
項目 4	0.22	-2.23	-0.50	1.80
項目 5	0.93	0.06	1.62	3.13
項目 6	1.30	0.02	1.25	2.31
項目 7	1.03	-0.18	1.48	2.64
項目 8	0.37	-2.31	-0.56	1.63
項目 9	0.79	0.13	1.71	3.19
項目 10	0.98	1.15	2.44	3.42
項目 11	0.72	0.57	2.05	3.37
項目 12	0.32	-2.51	-0.90	1.73
項目 13	0.96	0.43	1.80	2.93
項目 14	0.92	1.15	2.33	3.35
項目 15	1.02	1.16	2.49	3.48
項目 16	0.64	-1.32	0.03	1.39
項目 17	0.78	2.43	3.69	4.73
項目 18	0.98	0.82	2.39	3.47
項目 19	0.90	1.32	2.95	3.92
項目 20	1.03	0.83	2.36	3.38

困難度 1:「少しはあった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16 については、カテゴリーを逆にみて「ときどきあった」というカテゴリーの困難度

困難度 2:「ときどきあった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16 については、カテゴリーを逆にみて「少しはあった」というカテゴリーの困難度

困難度 3:「たいていそうだった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16 については、カテゴリーを逆にみて「ほとんどなかった」というカテゴリーの困難度

項目反応理論による CES-D の項目の識別力と困難度の解析 (60 歳以上)

	識別力	困難度 1	困難度 2	困難度 3
項目 1	1.02	0.21	1.57	2.86
項目 2	0.79	1.02	2.33	3.82
項目 3	1.19	0.85	1.92	2.92
項目 4	0.20	-3.44	-1.66	0.85
項目 5	0.94	0.43	1.65	2.82
項目 6	1.34	0.49	1.53	2.53
項目 7	1.01	0.19	1.51	2.44
項目 8	0.25	-3.56	-1.40	1.27
項目 9	0.77	0.35	1.63	2.99
項目 10	1.04	1.19	2.31	3.42
項目 11	0.68	0.39	1.65	3.06
項目 12	0.13	-5.91	-2.97	1.77
項目 13	0.91	0.73	1.84	2.88
項目 14	0.90	1.18	2.20	3.08
項目 15	0.93	1.40	2.60	3.65
項目 16	0.40	-1.69	-0.23	1.34
項目 17	0.77	2.65	3.73	4.78
項目 18	0.96	1.04	2.40	3.40
項目 19	0.81	1.79	3.23	4.32
項目 20	1.04	1.10	2.20	3.02

困難度 1: 「少しはあった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16 については、カテゴリーを逆にみて「ときどきあった」というカテゴリーの困難度

困難度 2: 「ときどきあった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16 については、カテゴリーを逆にみて「少しはあった」というカテゴリーの困難度

困難度 3: 「たいていそうだった」というカテゴリーの困難度、ただし項目 4、項目 8、項目 12、項目 16 については、カテゴリーを逆にみて「ほとんどなかった」というカテゴリーの困難度

III. 資料

CES-D による一般住民の抑うつ症状の調査

○本田純久¹⁾、中根允文²⁾

1)長崎大学医学部原研疫学

2)長崎大学医学部精神神経科

はじめに

厚生省(現厚生労働省)が行った「平成12年保健福祉動向調査」での調査結果をもとに、一般住民における抑うつ症状の頻度を把握し、関連するリスクファクターを明らかにする。

対象と方法

同調査は12歳以上の一般住民を対象に、平成12年6月に行われた。調査項目は、身体的・精神的な健康状態、ストレスの状況、睡眠の状況および抑うつの状況である。抑うつ症状の評価には Center for Epidemiologic Studies Depression Scale (CES-D)が用いられた。調査対象者の32,022人のうち、性別または年齢が不明な人、およびCES-Dの20項目のいずれかの項目を未回答の人を除外した22,430人を解析の対象とした。なお本研究は統計法に基づく目的外使用の許可を得て実施した。

結果

CES-Dの得点がカットオフ値の16点以上であった人は全体の30.3%であった。カットオフ値以上の高得点者は、性別では女性に多く(男性:27.9%、女性:32.6%)、年齢階級別では10-19歳の若い人(36.1%)と70歳以上の高齢者(36.0%)に多かった。最近1ヶ月間に日常生活で不満、なやみ、苦勞、ストレスを大いに感じた人(72.9%)や、睡眠による休養が全く不足していた(60.4%)またはやや不足していた(42.8%)と回答した人に、CES-D得点の高得点者が多かった。また、睡眠時間との関連では、睡眠時間が7時間以上、8時間以下の人でCES-D得点の高得点者が最も少なかったが、睡眠時間がそれよりも短い人やそれよりも長い人では高得点者の割合は多かった。

平成 13 年度厚生科学研究費補助金(統計情報高度利用総合研究事業)

保健福祉動向調査において実施した CES-D 調査の解析研究
研究報告書

発行日 平成 14 年 4 月

発行者 保健福祉動向調査において実施した CES-D 調査の解析研究
主任研究者 中根 允文

発行所 長崎大学医学部

〒852-8501 長崎市坂本 1-7-1
